親子クイズ ⑦③

ご家庭で話し合って答えてください。答えは今月号に出ています。

もんだい

第15回南国市民体育大会が、9月〇〇日、市民体育館と高知高専グランドで開かれ、ソフトボール、バレーボールに熱戦が展開された。

しめきり・10月15日(土)

おくり先・〒783 南国市大埇 南国市役所内広報委員会　親子クイズ係

答えのハガキには必ず**お歳・職業**を書いてください。

しょうひん

特賞千円＝3人　残念賞（記念品＝10人

第72回正解者発表

こたえ・㊋㊐でした

特賞・1,000円＝3人

岡本典子さん（植野）

北村多部子さん（領石）

山本はつひろくん（明見）

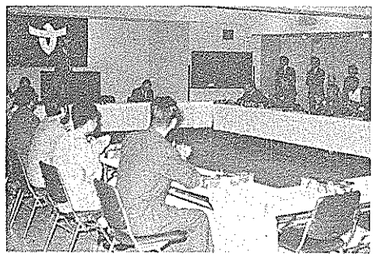
残念賞・記念品＝10人

水田二男（久礼田）小原広子（大埇）東条あや（久礼田）前田輝征（篠原）浜口和久（立田）高島正（大埇）合田己郎（植野）和田清（物部）長谷部秀子（立田）北村多子（小篭）

おめでとうございました。これからもどしどしご応募ください。

中国の友好参観団

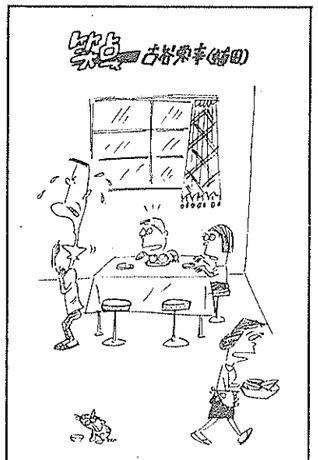
南国市を視察



中国国際旅行社の訪日友好参観団（団長・張雨同社総経理）の一行二十五名が、九月十七日午後南国市を訪ずれた。

南国市での視察は、稲生の石灰工場、市農協ライスセンター、長岡農協が主なもの。また、農家での民宿や歓迎夕食会も予定に組まれ、三日間の日程で視察した。

十七日午後四時に訪ずれた南国市庁においては、小笠原市長ら三役、関係職員らの歓迎を受け、表敬の挨拶が行われた。この席では、篠原の窪田正さんの尾長鶏が披ろうされ、十一㍍の尾の長さに目を見はり、南国市のシンボルとともに記念撮影をした。また、市庁を出る時、偶然に子供たちのあどけない歓迎を受けるなど、〝友好〟の南国市訪問となった。



食欲の秋「アラ、オチャワンが一つたりないワ」

市民ホールに花

八十四歳のおばあさんが、市役所の窓口にアートフラワーをとどけてくれている。このおばあさんは、上野田の加藤ムメさんで、趣味として、生きがいとして、一人暮らしの毎日を造花を作ってすごしている。市役所を訪ずれた市民も目をとめ、〝きれいな花だね。お年寄りの作品にしては手がこんでいる。心がなごむ。〟と、なかなかの評判である。いつまでも長生きをして、いい作品を作ってほしいものです。

広報委員の目

財　産

大人の会話には時々あそこは財産が多いとか少ないとか、家の評価を財産の有無によってする事がある。現在の物価高を切り抜けるためには何はともあれ先立つものは金で、そのためにも皆せっせと働いていると言えるかも知れない。いずれにしても物質的に恵まれる事は幸である。

ここまで書いてきて私は、私の言わんとする財産について書かねばならない。前述の財産は火災など人災、天災などで十の物を五に時には零になる危険性を多分にもっている。こつこつと飲まず食わずに貯めた虎の子をごっそりなくし途方にくれている人の記事は新聞などに事欠かない程報道されている。これらは有形の物だから無になる事はあり得る筈である。私の言わんとする財産は奪われない財産である。それは教養である。

〝教養〟それは奪われない財産である。

ずっと以前に耳にしたこの言葉財産に縁の薄い私にはすごく魅力的に響いた。現在なおその財産は極めて微々たる私であるが今までの心の支えの一助になった事は事実である。一つの事を習得するそして知識、技となる。それは誰にも奪われる事は決してない。これ程力強い財産はないであろう。ホームラン世界新の金字塔をうちたてた王選手、彼の偉業は一朝一夕にあらず涙ぐましい努力の賜でありその技は王選手の全身にみなぎり大きな財産となって残っていく。

また不幸にして社会の底辺を歩んでいる人その人達のすばらしい意見、文学などに接する時、そのわきいずる教養の深さに対し拍手を送るとともに教えられる数々を感ずる。この人達は経済的には充たされなくても奪われない大きな財産の持主であり、それを支えとして力強く生きていて欲しいと願わずにはいられない。

教養、それは簡単に身につくものではなく、知識欲を燃やしながら地道に努力をつみあげていかなければならない。でもそれを自分のものにすれば決して奪われる事のない大きな財産となり、前途に明るい一灯をともしてくれる筈である。〝教養〟それは奪われない財産である。

西森　律

ハピニュース

ホロリと涙の敬老会

九月十五日、今年も市内十四ヵ所で、七十歳以上、約三千七百五十人のお年寄りを祝って敬老会が盛大に行われました。

ことに、百歳のおばあさん山下須磨さんのいる前浜地区では、南国市で一番の長寿の山下さんをたたえる会があり、背すじもまっすぐな山下さんは百歳とは思えぬ元気さでした。

また、「おしめを換えてくれたおじいちゃん、おばあちゃん、病気もせず、いつまでも長生きしてください。」という小学生の作文に、ホロリと涙するお年寄りも見られるなど、心あたたまる敬老会となりました。

農機具祭

恒例の『農機具祭』が、十月十日から十一日までの三日間、県農業試験場（西島）で開かれました。

年ごとに機械化が進む近代農業。各メーカーの新鋭機にと多くの人たちがおとずれ盛況だった。

南国歌壇

となり家の童女が母を呼ぶ声を
かわゆく聞きつ奇禍をやしなう
岡豊町笠ノ川　**葛目治子**

蝉すらもまだ覚めやらぬ寺の森
清風にゆらぐ御燈明まぶし
北三畠　**小笠原綾子**

おぢいちゃんと言葉確かに呼びて
より優しむ祖父を離れむとせず
岡豊町八幡　**岩村とよき**

せせらぎにジュース冷やしてひね
もすを　みかん畑で夫と草ひく
亀岩　**島本　瞳**

かん高きもずの鳴声耳にたつ
歌詠みためしノート開きて
西島　**岡林きよ**

南国俳壇

病みて知るこころの厚さ吾亦紅　**川村博子**（忍冬句会）

不安定な血圧十雨波すごむ　**馬場左枝**（〃）

夏の蝶待らせて立つ一揆佛　**小松ふみ**（〃）

大木も折れて野分の瓦礫道　**川島育可**（柿の実会）

夕顔の棚にのぼりし盆の月　**溝渕猶猪**（〃）

岩風の名残の風と思わるる　**高石杜伎**（〃）

ひさびさに生家に目覚め百日紅　**西村棣子**（灯俳句会）

青年に灯の刻も過ぎ山の夏　**井上なるき**（〃）

本尊へ高腰の向き道をしへ　**山中日爽**（〃）